

研究タイトル：

ヴィクトリア朝教養小説についての研究



氏名：	川島彩那 / KAWASHIMA Ayana	E-mail：	kawashima@toyota-ct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	日本英文学会, 日本ペイター協会		
キーワード：	英語英米文学, ヴィクトリア朝教養小説, 19世紀イギリス小説		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・英語英米文学 ・ヴィクトリア朝文化 ・ 		

研究内容： ヴィクトリア朝教養小説における repetitious fixity に関する研究

教養小説はヴィクトリア朝小説の代名詞といえるほど広く認知されている概念にもかかわらず、その起源や定義はいまだ曖昧な点が多く、複数の作家や作品を横断する体系的な研究は少ない。たしかに、主人公に注目すると、自己形成の過程や成長によって得られる結果(社会的な地位の上昇など)は作品の価値観により様々で、共通点を見出すことは難しい。しかし、成長という変化は主人公の特権であり、それは変化しない登場人物たちによって可視化できる。このため、変化する主人公と不変の性質をはらむ登場人物との対比は、主人公の自己形成の過程を鮮明に描くために必要な要素だと考えられる。小説に登場する性質が固定された登場人物や、彼らと主人公の対比を分析することで、イギリスのヴィクトリア朝教養小説に共通する物語構造を明らかにする。

本研究では、ヴィクトリア朝教養小説に登場する不変の性質をはらむ登場人物について分析し、彼らが主人公の自己形成の過程においてどのように作用するのかを考察する。具体的には、チャールズ・ディケンズの長編小説『デイヴィッド・コパーフィールド』に登場するウィルキンズ・ミコーバーと、『大いなる遺産』に登場するミス・ハヴィンシャムを分析の対象とする。両者は作品に繰り返し登場し、毎回同じ服装で同じ台詞を話す固定化された性質が印象づけられている登場人物だからだ。また、善良な精神を一貫して示し続け、主人公ピップの成長に影響を与えた『大いなる遺産』のジョー・ガーサリーも検証の対象とする。さらに、他の教養小説にもこのような登場人物がいるかを検証し、変化する主人公と不変の存在との対比という物語構造が教養小説という分野に共通しているのかを明らかにする。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
なし	